第４学年２組　体育科（保健領域）学習指導案

指導者　教諭　谷平　早妃

１　題材名　もしも目の前で人が倒れたら　―わたしたちにできること―

２　題材目標

(1) AEDが設置されている場所，その機能や役割について理解することができるようにする。　 （知識及び技能）

(2)　救命時に自分たちはどんな行動をとる必要があるか考えることができるようにする。

（思考力，判断力，表現力等）

(3)　救命時に自分にもできることを考え，取り組もうとしている。　　　　　　　 （学びに向かう力，人間性等）

３　題材について

(1)　教材観

本題材は，小学校学習指導要領の体育編５・６学年（２）イ「けがの手当」に関連する内容である。

水戸市立笠原中学校区の小・中学校は，連携事業として，朝の「健康タイム」を継続的に行っており，救命につい　て発達段階に応じて学習する時間を設けている。「健康タイム」では，「AED」が校内のどこにあるのか，何のためにあるのか，どのような時に使うのかを学習した。また，小学校中学年の社会科「地域の安全を守る働き」，「自然災害からくらしを守る」の学習では，命を救うことのすばらしさや命を守るために人々の協力や連携が欠かせないこと，人の命を救うためには，時間に限りがあることを知った。

心停止の救命には，素早い初期対応が欠かせない。119番通報と心肺蘇生，AEDの使用によって目の前の命を救うことができる。さらに，AEDを５分以内に使用することで救命率を上げることにつながる。

そこで，本時では「目の前で人が倒れたら」という学習課題を設定し，限られた時間の中で救命時にすべき行動は何かを考え，自分たちにできることを児童一人一人に考察させたい。また，自分の勇気ある行動が，命を救うために大切であると知ることで，救命の意識向上につなげたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は，コロナ感染症対策や熱中症アラートなど，健康への関心は非常に高く，朝の健康タイムでは意欲的に活動に取り組んでいる。休み時間には，外へ出て遊ぶ姿が多く見られ，鬼ごっこやドッジボールを楽しむ児童が多い。しかし，本校は，900人近くの大規模校であり，児童の数に対して校庭の広さが十分ではない。そのため，児童同士の衝突によるけがが多くあり，令和５年度（10月25日現在）の運動場でのけがは668件になる。特に，擦過傷，打撲，捻挫が多い。そのため児童たちは，人がけがをしている場面に遭遇することが多くあり，保健室へ連れて行ったり，声を掛けたりする姿が多く見られる。

事前に行った救命に関するアンケートの結果が以下の通りである。

**救命に関するアンケート（４年２組　10月24日実施　実施者：36名）**

１　外遊びは好きですか。

・好き（28人）　・どちらかといえば好き（８人）

２　人が意識を失う原因として何が考えられますか。（複数回答可）

　　・熱中症（21人）・頭をうった（８人）・けがをした（４人）・人にぶつかった（６人）

・心臓が止まった（３人）・アレルギー反応（２人）・遊具から落ちた（２人）

３　人の命を救うための行動は分かりますか。

・分かる（18人）　・どちらかといえば分かる（15人）

・どちらかといえば分からない（２人）　・分からない（１人）

４　上の質問で，「分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた人は，どのような行動をしますか。（複数回答可）

・大人を呼ぶ（21人）・AEDをもってくる（５人）・AEDを使う（２人）・AEDを探す（１人）

・呼吸の確認（２人）・保健室へ連れていく（８人）・胸骨圧迫（３人）・119番（４人）・声をかける（５人）

５　校内で設置されているAEDの場所は分かりますか。

・分かる（26人）　・分からない（10人）

アンケートの内容より，児童は意識を失う原因として「心停止」を考える児童が少ないことが分かる。命を救うための行動が「分かる」と答えた児童でも，「AED」と結び付ける児童が少ないこと，「保健室へ連れていく」と答えた児童が多いことが分かった。これらの結果から，倒れた人が心停止していた場合でも，心停止していると考えずに，軽いけがと同じように，大人を呼んだり，声を掛けたり，保健室へ連れて行ったりしてしまう児童がいることが考えられる。また，「健康タイム」で校内設置場所を学習しているが，校内におけるAED設置場所を把握している児童が少ないことが分かる。普段児童は，生活している場のAED設置場所のみ把握し，目につかない場所のAED設置場所は把握していないという実態がある。これは，AEDを使う機会が「ない」と考えている児童が多いのではないかと考えられる。

(3)　指導観

本時では，身近なスポーツの動画を見せることでイメージを共有し，日常生活の中でいつどこでも，誰にでも心停止が起こりうることを意識させることで，学習を自分事として捉え，児童の主体的な学びにつなげたい。また，AEDトレーニング機を用いた実技をすることで，救命に大切な５分という時間を体感させる。その経験をもとに，児童たちから引き出した救命時の行動の必要性を精査させるとともに，冷静な行動や判断が救命に必要だと気付かせる。救命時にとる行動を，「自分にできること」，「大人に頼むこと」に分類することで，第４学年という発達段階に応じた個人で取れる行動を考えさせたい。一人一人の勇気ある行動が，命のバトンをつなぐ行動に繋がり，「自分にもできることがある」という意識を高めさせるとともに，児童一人一人の救命に関する基盤を育むとともに行動力を身に付けられるようにしていく。

４　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| けがの悪化を防ぐ対処として，けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握して処置すること，近くの大人に知らせることが大切であることを理解している。 | けがの防止に関わる事象から課題を見付け，危険の予測や回避，けがの手当や，命を救う方法を考え，それらを伝えようとしている。 | けがや体調不良で助けを必要とする人が，目の前にいた時，自分ができる行動を考え，取り組もうとしている。 |

５　指導と評価の計画（５時間扱い）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ねらい・学習活動 | 知 | 思 | 態 | 評価方法 | |
| １ | ○けがをしてしまった際には，状況の速やかな把握と処置をすることを理解する。  １　けがにはどのような種類があるかを出し合う。  ２　大きなけがと軽いけがに分ける。  ３　AEDの設置されている場所，その機能や役割について理解する。  ４　ASUKAモデルを知る。  ５　振り返りをする。 | ○ |  | （ | 観察  ワークシート | |
| ２  (本時) | ○救命時に自分たちはどんな行動をとる必要があるかを考えることができるようにする。  １　動画を見て，人が倒れた原因を考える。  ２　AEDを実際に使い，救命時の時間の短さを把握する。  ３　今の自分にできる行動を考える。  ４　考えを共有し，「命を救う」ことの大切さを考える。  ５　振り返りをする。 |  | ○ | ○ | | 観察  ワークシート |
| ３～５ | ○既習事項を生かして，AEDの知識や情報を学校全体に伝えることができるようにする。  １　AEDについてスライドやポスターにまとめ，低中学年に発表する。  ２　高学年と協力して，地域のAEDマップを作成する。  ３　振り返りをする。 |  |  | ○ | | 観察  スライド  作品 |

６ 本時の展開（２／５時間）

(1) 本時の目標

◎　けがの防止に関わる事象から課題を見付け，危険の予測や回避，けがの手当や，命を救う方法を考え，それらを伝えようとしている。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（思考力，判断力，表現力等）

　 ○　けがや体調不良で助けを必要とする人が，目の前にいた時，自分ができる行動を考え，取り組もうとしている。

（主体的に学習に取り組む態度及び人間性等）

(2) 展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容・学習活動 | ○教師の指導・支援　◆評価規準と方法 |
| 導  入  ５  分 | １　動画を見て，運動中に心停止をしてしまう事例を知る。  　・「ボールが当たっただけで心臓が止まるのは驚いた。」  　・「普段の遊びの中でも心臓が止まってしまうことがあるかもしれない。」  ２　本時のめあてを確認する。  目の前で人が倒れたらどのように行動すればよいのだろうか。 | ○人が倒れる理由には，様々な要因があり，その中に「心停止」があることをおさえる。  ○心停止して倒れた人を救った人たちがいることを知らせることで，関心を高める。  ○倒れてしまった人が，友達や家族であった場合を想定することで，学習課題を自分事として捉えられるようにする。 |
| 展  開  35  分 | ３　目の前で人が倒れたときの行動を考える。  　・安全確認　　・保健室に運ぶ  　・反応の確認　・大人を呼ぶ  　・119番　　　・胸骨圧迫をする  　・AEDを頼む，使用する，持ってくる  　・保健室へ連れていく  ４　AEDを実際に使い，５分以内に電気ショックができるかを確認する。  ・「服を脱がせるのが大変だ。」  ・「思ったよりも時間がかかる。」  ・「冷静さを失う。」  ・「今の自分達にはAEDを使うのは難しいかもしれない。」  ５　自分にできることを考える。  　・より早く電気ショックを与えるための行動を考える。（３人グループ）  　・「自分にできること」，「大人に頼むこと」の２つに分けて考える。  　・発表し，考えを共有する。 | 〇人が倒れる事例は，学校でも日常でも起こりうることを確認し，心停止はいつでも，どこでも，誰にでも起こりうることをおさえる。  〇AEDは，何をするための道具かを質問し，心停止の時に「心臓のブルブルを止める」ことをおさえる。  ○既習事項を振り返ることにより，AEDの電気ショックは５分以内にあたえる必要があることをおさえる。  ○実際に体験させることで電気ショックまでに時間がかかることを体感させる。  ○一人一人が実習者と同じ気持ちで実習を見るように声掛けする。  ○周りで実習を見る児童には，声を掛けることで実習者をサポートするように助言する。  ○限られた時間しかない中で「保健室へ運ぶ」ことが必要であるかを考えさせることで，心停止の場合には保健室へ運ばない方がよいことをおさえる。  ○友達の意見を聞くことで，それぞれができる行動には違いがあり，一人一人の力が救命に必要であることに気付けるようにする。  ○２つに分ける判断基準を明確にすることで，理由をもって自分の考えを説明できるようにする。  （Jamboardの活用）  ◆けがの防止に関わる事象から課題を見付け，危険の予測や回避，けがの手当や，命を救う方法を考え，それらを伝えようとしている。  （思考・判断・表現）  【観察・ワークシート】  ◆けがや体調不良で助けを必要とする人が，目の前にいた時，自分ができる行動を考え，取り組もうとしている。  （主体的に学習に取り組む態度及び人間性等）  【観察・ワークシート】  （主体的に学習に取り組む態度及び人間性等） |
| ま  と  め  ５  分 | ６　本時の学習を振り返る。  　・目の前で人が倒れたときにとる行動を自分の言葉でワークシートに振り返る。 | ○児童の気持ちを尊重し，今の自分にできないことが多くても，少しずつできることを増やしていこうと声掛けすることで，救命に対する意識を高めていく。 |